

基礎情報 (H29.1月現在)
区・自治会名: 打下区
世帯数: 47世帯
高齢化率: 40.4%



今回は、昨年7月に打下区(高島地域)で開催された集落座談会のような紹介をします。集落座談会には、11名の区民の方が参加され、市職員から市全体および打下区の人口推計や、人口減少、少子高齢化が進む中での地域課題について説明を受けた後、4つのグループでの意見交換が進められました。グループの話し合いでは、「①大変なことや心配なこと」、「②うまくいっていること楽しいこと」を話しながら、「今後の提案やアイデア」が出されました。①については、「10年先はどうなっているのだろう、空き家が増えてきている、祭事などの維

持が難しくなっている、若者が区から出ていってしまう、農地を守れなくなっている」などの意見が出されました。②については、「地域活動に熱心な方に支えられ区が運営されている、サロンが積極的に開催されている、夏祭りなどに帰省する人が多い、グラウンドゴルフなどに参加する人が増えてきた」などと話されました。これからの区については、「区役員へ女性の参画を進めていきたい、世代を超えて区民が集う場所を作ってつながりを深めていきたい、歴史・伝統・文化を伝承しながら集落を守っていきたい」など、これからの区のあり方について話され、貴重な意見交換の場となりました。

教育委員会の取り組み

全国学力・学習状況調査

4月に、小学6年生と中学3年生の全児童生徒を対象に、全国学力・学習状況調査を実施しました。学力状況調査の主な結果の分析は次のとおりです。

学力状況調査から

【小学校】

- ・概ね良好…「200字程度の文章の概要を読み取る」、「小数の乗法の問題場で、数量関係を数直線に表す」
- ・課題あり…「文意に即して漢字を正しく書く」、「平均を求める問題場で、能率的な処理を解釈する」

【中学校】

- ・概ね良好…「ことわざや敬語など語句の意味を理解している」、「一次関数の表で、変化の割合の意味を理解している」
- ・課題あり…「文意を読み取り、指示語が表す内容をとらえる」、「等式を目的に応じて変形する」

これらの結果を踏まえ、各教科等の指導のねらいを明確にし、学習の終わりに振り返りを行うなどして、引き続き基礎的・基本的な内容の定着を強化します。また、自分の考えを書く活動や

話し合う活動を通して、課題をしっかり理解し、深い学びへとつなげる取り組みを充実します。

学習状況調査からは、小・中学校ともに、住んでいる地域の行事に多くの子どもたちが「参加している」と回答しており、今後子どもたちが地域と深く関わっていくことが望まれます。一方、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の割合が全国平均に比べて低く、家庭での学習の仕方について改善を図る必要があります。

各学校では、学力向上策を学校だよりなどでお伝えし、家庭と連携した取り組みを進めています。家庭においても家庭学習や読書の習慣が身につくようご支援・ご協力をお願いします。



☎ 学校教育課 (32) 4471

年末にかけて交通事故にお気をつけください

今年も残すところあと1か月となりました。年末のあいさつや、新年の準備、季節のイベントなどで、公私ともに外出される機会が増えてくることと思います。

12月はこのように慌ただしく過ぎるうえ、日没が早く、降雪や路面の凍結も懸念され、年間を通じて最も交通事故が多い時期となります。昨年12月の県内の交通事故発生件数は577件と、他の月に比べ1.3倍増えています。市内でも13件発生しています。

交通量の増加や不慣れな道での走行は、交通事故を招きかねず、特に「初めて・変化・久しぶり」といった際に事故は起きやすく、「初めて走る道、いつもと違う車、久しぶりの運転」などの状況下では、いつも以上に注意する必要があります。

また、労働災害の経験則の一つでありますハイインリッヒの法則によりますと、1件の重大事故の背景には29件の軽微な事故、さらに300件のヒヤリ・ハットが潜んでいると統計学的に示されています。これは交通事故にも当てはめられることができ、運転中にヒヤリ・ハットする事象が発生すれば、軽視することなく、原因を特定し、対応策を講じることが重要で、こうすることによって交通事故を未然に防ぐことができると思われます。

これからの時期は特に、気持ちや時間に余裕を持った運転を心がけていただくなど安全運転に努めていただき、皆さまおそろいで良いお年をお迎えください。

福井 正明

市長雑記



上の子が下の子を泣かせてばかりで困ります

子どもの年齢がそれほど離れていない時、上の子どもが下の子どものする行動(叩く、おもちゃの横取りなど)が気に入り、上の子どもを泣かせてばかりということがよくあります。

親としても放っておくこともできず、ついつい上の子を怒らせてしまう。毎日のように繰り返されると親も注意することにだんだん疲れが出てきます。上の子どもの行動は、下の子をかまいたい・親の関心を得たいがためにしていることも知れませんが。

「○○ちゃんのおもちゃを貸してほしい時はお父さん・お母さんに教えてね」というように事前に伝えておくことで、注意する必要がなくなることもあります。子どもが教えてくれた時には、その行動を目いっぱい褒めてあげましょう。



☎ 子ども家庭相談課 (25) 8517